

# 南スラウェシ旅行報告

阪口正樹

兵庫県生物学会創立50周年を記念してインドネシアの南スラウェシ（ウジュンパンダングとタナ・トラジャ）旅行を29人の参加で実施しました。半年も前から準備し、また、7月19日には事前説明会をもっていただき、色々とお世話いただいた細見先生には特にお礼を申し上げます。また、三木先生にはスラウェシに関する資料を全員に配布していただき、予備知識を得る上で参考になりました。前会長の平畑先生には団長として何かと気を使っていたいただきました。全員無事帰国できましたことは、何にもましてのお土産でした。職業の違う老若男女が29人も集まって8日間楽しく暮らせた経験は、民間団体を運営していく上で大変参考となりました。

参加者名：29名と現地ガイド2名

- 1班 平畑政幸（団長） 藤田義隆（班長）  
竹内 廣 三木正士
- 2班 大日向郁夫 大日向美那子 三瀬真弓  
猪田まさみ（班長） 猪田有美
- 3班 武田義明 白岩卓巳 吉田誠治（班長）  
甘中照雄 山本一潔
- 4班 阪口正樹（事務局） 鷺見寛幸  
植田吉則（班長） 大江 雅 大江久美子
- 5班 阿蘇達郎 北村 健 横山法次  
松本淳二 松本恵子（班長）
- 6班 脇田嘉輔 仲井啓郎 藤原正人（班長）  
猪田美佐 細見彬文（事務局）

Jamal：ガイド・案内車 Hasmawati：助手（女性）

## 会計報告

### A) 収入

名目	一人当たり	人数	計
旅費	236931円	28人	6634068円
旅費	54331円	別便1人	54331円
途中集金	13000円	29人	377000円
帰途集金	1000円	28人	28000円
合計			7093399円

### B) 支出

名目	ドル建	ルピア建	円建・円換算
航空運賃			5292000円
ロザリビーチホテル	6175 \$		734825円

ランティパオロッジ	3500 \$	416500円
バス代金（5台）	1500 \$	178500円
オムニバタピアホテル	375 \$	44625円
バス（ホテル送迎）	307000Rp	15350円
バレバレストラン（行）	485 \$	57715円
パロボタクシーチャーター	100000Rp	5000円
ランティパオ弁当36コ	540000Rp	27000円
ランティパオロッジ Jamal	105 \$	12495円
バレバレストラン（帰）	476 \$	56644円
トラジャレストラン	480 \$	57120円
Jamal 礼金		50000円
Hasmawati 礼金		20000円
車探し礼金	20000Rp	1000円
入村料・ランプ代	287525Rp	14376円
運転手チップ（5人）	100 \$	11900円
ディナーキャンセル	189 \$	22491円
帰途ジャカルタバス		15000円
国際電話料		24652円
通信費		30880円
合計		7088073円
残額		5326円

## 1997年8月17日（日）

10:30 関西空港海外出発ロビーA入り口に集合。阪神尼崎8:33発のリムジンバスに乗ったが9:18到着。予定より10分も早く到着。国道43号線はがら空き状態。昼から混むのか。山本一潔氏少し遅れるが、29名全員が集合。共進トラベルの社員（女性）より記入済み出入国カードを渡され指示を受ける。セキュリティチェックの後、ウィングシャトルで18番ゲートへ移動。空港税は2650円。

12:30 離陸。北東に上昇。左に回り淡路島の上空を行く。左に鳴門海峡を見る。本四架橋宇野・高松？来島海峡？を見る。国東半島は放射状に谷ができています。有明海の海岸辺は赤っぽい。諫早湾干拓地？は湾内が白っぽかった。左方向は雲海が広がる。台風13号はどこか？台湾上空、フィリピン西方、ボルネオ西方、赤道通過。赤道通過記念証を渡される。

17:10？現地時間、ジャカルタに到着。日本と2時間の時差あり。7時間ほどのフライト。その間に軽食2回。

昼は鰻重、夕はソバ。空港内で円をルピアに交換、1万円が21万ルピアほど。というのは、両替屋で交換レートが違うため。3軒ほどあったがそれぞれ微妙に違う。地方に行けば交換レートは悪くなるという。大日向さんのご主人の荷物だけ着かず。空港当局と彼一人で話し合う。次の日、ウジュンパンダンのホテルに荷物が届く。大日向氏がブルータクシーの受付で10分ほどかかって16万ルピアを10万ルピアにまげさせる。大日向氏と彼を待っていた6人が2台のタクシーに分乗。他の人々はマイクロバス2台で荷物をもって先に向かう。オムニ・バタビアホテルで休憩。この日は独立記念日で大きいバスが出払って、このマイクロバスしかないとのこと。ウジュンパンダン行きの飛行機も予定より遅くなったためにホテルで休憩することになった。大日向さんの話では空港に近いから10万ルピアにまげさせたとのことだが、ホテルまでかなり時間がかかった。こちらのタクシーには話ができる者はいないので、本当にホテルに向かっているのか不安になってきた。なんかさびれた街角を通りだしたので、もしかしたら無一文になるかもしれないと腹を決めたところでホテルのネオンが眼に入ってきた。オムニ・バタビアホテルは四つ星のホテルでなかなか良いホテルだった。三木先生はまだまだ良いホテルがある、トイレもビデ用のものが付いている部屋もあるとか。うかつにも手洗いを使った後、私は水道水でうがいをしてしまった。あれだけ事前の説明会で注意を受けていたのが、こんなに簡単に忘れてしまうものとは。幸いお腹を通すことはなかったのだが。夕食はホテルの一階レストランでとった。バイキング形式で味は良かった。ウェイターがお金を払わないで帰った人がいると困っていた。誰だか知らないかと、おそらくそんな感じでした。1人3万ルピア程支払った。部屋のテレビは日本からの独立記念日のニュースを流していた。当時の戦争映画とスハルト大統領・政府高官の式典での様子を長時間流していた。おそらく式典が終了した後、各地の高官が現地へ戻るので我々の飛行機も後にずれこんだのではないかと。

22:00 ホテル出発、マイクロバス2台で。

23:00 空港で搭乗手続き。Domesticなのに、なぜか待たせたがかなり10分程足止め。

## 8月18日(月)

0:30 離陸。機内は満席で、水平飛行に移るや食事、ローストチキン。

4:00 ウジュンパンダンに着陸。現地時間はジャカルタより1時間進んでいる。空は真っ暗、星が見える。この飛行機は何ヶ所かに寄った後、昼頃に西イリアンまで行く。予約していたホテルの車が待っている。荷物用の車1台とマイクロバス5台。ほんとにこの車に荷物を預けて大丈夫なのかと心配したが、細見先生も何も言わな

いので大丈夫と自分に言い聞かせる。もっとも私の荷物は小さいので預けなかったが。道路はアスファルト舗装。ナトリウムランプが明るい。そういえば飛行機から橙色の光の帯が何本も見えたがこれか。30分程車に乗った。電飾が好きなのか、建物や塀にもランプが。信号は1つだけ。ホテルではウェルカムジュース、一人一室。11時まで休憩。12時までに朝食、12時半に採集予定。各室に解散。ホテル名は Rosari Beach Hotel。204号室はシャワーが固定できず、手でもってシャワーにかかると。オムニバタビアホテルでのうがいを反省して、口は決して開けず。外は白む。窓の向こうは道路と海、車がうるさい。

10:00 朝食にはトースト、お粥、焼きソバがあるが、お粥にピーナツや麩、香辛料をかけて食べる。お粥に味付けがしてあり食べやすいが、昨日のホテルでのうがいが気になって、あまり食が進まない。このホテルの交換レートは1万円で16万3千ルピアほど。

11:30 植田氏と海岸通りを歩く。輪タクが寄ってきて「散歩？」などと話かけてくる、離れない。パトカーが追い払ってくれたが、いなくなるとすぐに寄ってくる。そうそうに散歩を中止。ビルの屋上には大きなパラボラアンテナが真上を向いて傘を広げている。ホテルの部屋ではNHKテレビがみえる。時刻が画面に出ていない。時計のない生活をしようとしたがやはり不便。ドリアンの試食、甘い香りと油臭さの両方を合わせもつ。好きにはなれないが、平畑先生は好きな食べ物だとのこと。

12:30 バンティムルンへ出発しようとしたが車が4台しかなく10分程で用意完了。我々の車は、阪口、植田、鷲見、大江夫妻の5人が乗る。街中は輪タクで一杯。自転車もバイクも縦横無尽に走り回り事故の起きないのが不思議なくらい。途中我々の車はガソリンを入れるために遅れる。1リットル700ルピアとのこと。付近はエビ養殖のため池。道路端で干している粉を撮影、長粒種。遅れたので急いだ。バンティムルンのサルのコンクリート像の股の下をくぐって駐車場へ。他の車がないので元の道を引き返す。川の側をずっと下り、学校のところで川を渡って静かな農村の中を走る。砂利道で、車は上下左右に揺れる。水牛、ニワトリ、馬を見、右手に石灰岩の山を見ながら終点まで。田園の中に大きな岩が頭を出している。ここにも車がない。元の道を帰る。再びコンクリート製のサルの股をくぐり駐車場に。いない。近くの人が運転手になにやら話をしている。今後は少し戻り、サルの股をくぐらない方の道を、アスファルト舗装の道を右にカーブした。少し行くとイロハ坂のような坂にさしかかり、途中まで行ったところで後ろからバイクで追いかけている男が呼び掛けるのに気付いた。坂の下まで戻れとのこと。坂の下に車をおいてから歩いて10分

もしないうちに河原で先発の人たちが昼食をとっているのと出会った。途中でレンジャーがいた。鼻薬は効かせてあるとのこと。昼食は我々の分はなかった。余っているので運転手にあげたそうだ。おいしくはなかったので、我々に残っているものをくれる人はいなかった。本当にまずかったようだ。脇田さんは子供たちを使ってチョウチョウを採集したとのこと、北村さんは網をもってきているがどうしたか不明。ほとんどがハイキング気分。白岩先生がめずらしいシダを見つけたとか。山本さんがどこに行ったかつかめなくなったとか。引き返すはらずが、そうではなく one way と言われたとか。いろいろありました。遅れた我々5人は大日向夫人からチョコレートをいただき空腹をいやした。帰途、鷺見さんがバナナがほしいと運転手に言うと、運転手はサービス精神旺盛で後ろを振り返りながら返事をする。前を向いてほしい。80キロ毎時程のスピードで走っている。バナナ2房2000ルピア、おいしい。松本さんも猪田さんもほしかったのだが運転手が急いでいたものだから言えなかったとか。すでに日没。マカッサル海峡の夕日は素晴らしいとのことだが、見られず。ここをウォーレス線が走っている。ホテルの部屋からは夕日が海に沈む様子が見えるはず。ウジュンバンダン最近までマカッサルと言われていた。明日は9時出発。ランティバオまで7時間。

19:00 鷺見、植田、脇田氏と4人で夕食へ。鷺見さんが輪タクの人とお話。我々の周りに輪タクが多数群がる。寄って来るってこういうことなのと鷺見さん。脇田さんは屋台に近づこうとするし、写真を撮ろうとして遅れるし、離ればなれになると心配なので気を使う。カニを食べさせてくれる店に行こうとしたが探し出せず、結局、ホテルの側の舟形のレストランへ。ここでウェイトレスと20分程かけてやっと一人一品ずつ注文。その間ビール1杯を飲み終わる、脇田さんは水。カニ料理3品、エビ料理1品を4人で分けて食べる。17万ルピア。ビール合計9杯。生の女性の歌、日本の歌が心に滲みる。我々のグループがほとんどこのレストランへ来た。バイクもあった。店を出ると、日中は全く屋台がない海岸沿いが、ずらりと屋台村に変わっている、大にぎわい。

21:00 ジャマールがホテル前に迎えに来ていた。我々4人が彼の(細見先生所有の)車で自宅へ。路地で夕涼み中の人の前を通って自宅の応接室へ。こぎれいな部屋で蝶の標本などが飾ってある。脇田氏は70万ルピア程買う。植田、鷺見両氏も買うが、私は買わず。

22:00 ホテルへ。ホテルから自宅へ電話、5分で38000ルピア。2換わり分風呂で洗濯。細見先生の呼び出しがあり一階のバーへ。女性の話に花が咲いていたので、早々に引き上げた。向かいの店で1500mlのAQUAを1500ルピア1本買う。

## 8月19日(火)

7:00 起床。朝食にお粥と焼きめし。便は少しゆるめ、植田さんは始まったという。原因不明。

9:00 出発予定が、クーラーの利かない車が来たため車を取り替え。

10:00 出発。4号車のクーラーも昨日調子が悪かったのだが、それを言わないから今日こんな悪い車をもってくると鷺見さんが叱られる。一日中クーラーを使わずに今日は走った。昨日走った道を少し通ったようだ。飛行場の側と果物を売っている場所に見覚えがある。3号車が果物屋で停車したので4号車も停車。バナナ・タピオカの焼き煎餅・リングなどあり。裏にトイレがあるというので草むらに立ち小便。海から一定の距離を保ちながらパレパレまで。途中魚の養殖場、海近くではマングローブ林を切り開いたエビの養殖場。マングローブらしいものは見えず。パレパレで昼食、485ドル。中華料理に最後はコーヒー。豆は細かく挽いてある。カップの底に泥のように残る。鯛のような白身の大きい魚がでてきた。あっさりしていて大味でありおいしいとは感じなかったというが、ひととおりの食べ終わった後、「もったいない、まだ身が残っている」と言いながら、私が頭の骨をつついていていねいに身を取り、骨格標本のようにしてしまった。鷺見さんは驚きだと言う。レストランは丘の上。眺望はすばらしい。海岸には家々とヤナ、その向こうに細長い島が横たわる。阪口、植田、鷺見はビールを、大江夫妻はミネラルウォーター。

15:30 出発。これから内陸へ向かう。バナナの実がなっている。一年生なので、新芽を植えて次のバナナを収穫する。実がなるとその株は枯れるとのこと。2号車、3号車に続いて停車。ラタンが見える。籐の原材料とのこと。道路際にはオジギソウが雑草となって生えている。ピンクの花、茶色の実、片側が茶色で反対側がまだ緑色の完熟前の実が着いている。大江先生、熟した実を採集。2号車と3号車は我々の後にいたはずなのにどうして前にいるのか。途中でマラソン大会をやっていた所でPoliceに止められたと言うが、先に出発していた我々は止められたことはなかった。道路は1本しかないの、どこかで追い抜かれたことになる。道路はせいぜい海拔200メートルを走っていた。これから山岳に入る。

18:00 チキチキ山に見える峠の一軒茶屋で休憩。コーヒー一杯1000ルピア。このコーヒーもカップの底に豆の粉が泥のように溜まる。おいしい。コココーラ製のHi-Cというビン入り橙色のドリンクは変な味がしたと鷺見さん、1500ルピア。チキチキとは女性の陰部の名称で山肌がそのような形に見えることからという。昔、いとこ結婚を無理矢理させられるのを嫌がって、ここまで逃げてきてそんな山ができたのだという。男性の陰部もチ

キチキというらしい。チキチキバンバンというのはどう  
いうことかと驚見さん。人なつこい地元のサル。尻尾  
が短い、ニホンザルに似ている。鉄製の小さいオリの中  
でマスコットとして観光客に可愛がられている。この峠  
の一軒茶屋は最近できたものと細見先生。柱にはラタン  
の細工、屋根はヤシの葉でふいている。高校生ぐらい  
の娘さん、小太りでステキ、片言の日本語が話せる。驚  
見さんが話しかけて独占するので私にはしゃべるチャン  
スなし。トイレは洋式、大便をすると側の水をひしゃく  
で2、3杯くんで流し去るとのこと。紙もないので、そ  
れこそ左手で水洗いか。後1時間の行程とのこと。周り  
は暗くなり始めている。山の上に明るい星が、かなり明  
るく1等星以上。オリオン座が見えると言ったら冬の星  
だから見えないと言われた。18日未明のウジュンパンダ  
ン空港での星もオリオンだと思っているのだが。今日の  
月は立待月、山岳地帯を行く中で、山の上に橙色の月が  
ヒョコッと現れる。日本で見るのと同じで大きい月。赤  
みがかって、思わずつまる。昨年の中秋の名月と同じよ  
うな気持ち。天は薄明るい。

19:40 イヌをはねる。アッ、ドスン、キャン。とう  
とうやってしまった。80km毎時も出すからいつかはや  
ると思っていた。町中なのでかなりスピードを落として  
いたが前の車の後を渡ろうとしていたイヌが、距離が近  
くて渡りきる前にこちらを向いてひかれてしまった。素  
知らぬ顔をして通り過ぎる。2号車はニワトリをひいた  
らしい。子供をひいてもそのまま逃げおこせるような気  
がする。ほとんど警官を見ないので。

20:10 田圃の中のランティパオ・ロッジに到着。ウェ  
ルカム・ドリンクは赤いジュース。各自部屋を決めてあ  
ったが、4人だけ部屋がなくて2人部屋となる。電灯・給  
湯の不備が多い。夕食はホテルのレストランで。大江夫  
人はお腹の調子がもう一つなので食べない。ご主人と我々  
4人でレストランに行くついでに皆さん注文済み。我々  
4人は少なく注文することにした。トラジャ名物の鳥肉  
料理2人前と野菜スープ、トマトスープそれぞれ1人前  
を4人で分け合って食べた。米が山盛りに出た。よく噛  
むとおいしい。鳥肉とバンブーの新芽の炒めもの。バン  
ブーはかなり硬い、ほとんど繊維のまま、これもよく噛  
んで食べるとおいしい。赤ワインもおいしい。4人で  
97000ルピア。驚見さんが可愛いウェートレスに1万ル  
ピアのチップを渡して一人で気を引いていた。3万ルビ  
アづつ、大江先生はミネラルウォーターを飲まれたので  
17000ルピア。部屋に電話がない、別棟のフロントにあ  
るが、なかなかかからないとのこと。001しかないとの  
こと。ウジュンパンダンでは、001がかからなかったの  
で、008をまわすつとすぐにかかったのだが。

## 8月20日(水)

0:00 時計がないので真夜中のこと。これを記録中に  
ニワトリが一羽鳴いた。一羽が鳴くと次々とうるさく鳴  
き止まない。

7:00 起床。脇田・白岩両氏の採集の声が聞こえる。  
朝霧がかかる。我々日本人は9時から朝食の予定らしい。  
それまで付近を散策。水牛が田の中をひもで繋がれて草  
をはむ。2頭。デンジソウ・アカウキクサ・コナギ・オ  
ヒシバ・パパイヤ・キャッサバ・タヌキモ。昨夜のトラ  
ジャ料理にバンブーが入っていたが、そのバンブーはショ  
ウガのようなものを薄く切り竹筒に入れて調理したとい  
う。ロッジの庭にそのショウガのようなものがあったと  
いう。朝寒い、標高700m。

10:00 出発。レモ着。巨大な観光地。船形家と部落を  
見下ろす墓地。岩壁に死者を模した人形と石窟がある。  
10個程の石窟があり、遺体をどンドン押し込んでいく。  
新しい遺体を入れた石窟は薬帽子をつけている。近くの  
売店の人形や布は死者の人形やそれを抽象化した柄であ  
る。7万ルピアでその布を買う。田圃では60cm程の草丈  
のイネが実っており、村人が脱穀をしていた。それは簡  
単で、箱の中に両側から一人ずつ束ねたイネを打ちつけ  
ているだけ。4、5回打ちつければほとんどのモミが箱  
の中に落ちてしまう。日本でも昔はそうにしていた  
という。穂から実が簡単に落ちないことが栽培種のポイ  
ントだが、脱穀できなくても困ってしまう。長粒種、落  
ちているのを少し拾う。皆さんお土産を買うのが忙しく  
て集合が遅れる。大江夫人が4つ布を買ったのに3つし  
かない、ジャマールにそれを言うと、3つと思って交渉  
したとのことケリ。カカオの実が少し黒く見えていた  
花は幹に小さくつく。土産物店が10軒以上、死者が村人  
を守る村。いろんな意味で死者が村人を守っている。

12:00 ケテケス着。ここも舟形家トンコナンがずらり  
と並んだ村。ここも観光地となっていてバス、自動車が  
数珠つなぎに。駐車場らしきもの拡張工事が始まって  
いる。トンコナンは大型のものと小型のものがあり、小  
型は穀物庫、高床式、ネズミ返しのような構造が見られ  
る。大型も穀物庫とか住居のような感じがした。大型ト  
ンコナンの修理中?その裏側を行くと舟形棺桶に人骨が  
入っている。壊れた舟からシャレコウベが覗いている。  
ここでレリーフを作っている青年がいた。彼が作ったの  
を売っている、ここしか売っていないとジャマール。50  
万ルピアでいいのがあったが、40万ルピアにしなまけて  
くれなかったので買わなかった。横山さんは青年の作っ  
た別のものを35万ルピアで買ったが、それ以上まけてく  
れず、頼みなのでシャツをつけさせたとか。マタハリ(太  
陽)、トンコナン、水牛、ニワトリ、ここの生活を描写  
している珍しいレリーフ。他ではそのような作品を見なか

た。レリーフではなく版画のようなものしかない。50cm×80cm×1.5cm、他のもののように彩色はしていない、彫っただけ、少し木が湿っているような感じ、ホウの木のように。日本にもって帰ると乾燥してひび割れをおこしそう。横山さんが買ったのは、これよりも少し小さく、彫りが丁寧にできている。私はそれよりも彫りが少し粗いが、勢いのあるこちらの方が好き。

13:00 出発。ケテクス近くの外人専用のレストランへ。駐車場は満杯。テーブルに座ったがかなり待たされた。ビールと中華料理。

15:00 出発。ロンダ着。途中の田にアヒル。ケテクスでも側に湿地があり、白岩先生がその湿地を神戸にもって帰りたいと、同感。ロンダの村にゲートがあり、ここでジャマールは入村料を払っているのだと、今までの2つの村でも入村料を払っているとのこと。ロンダでは洞窟に死者の入った棺桶をもって入り、岩のすき間などにそれを置いていくのだという。入り口で子供たちがたむろしており、ランタンをもって案内してくれた。これは5ヶ月前に死んだ人の棺桶だ、まだ湿っていてミイラになりかけの棺桶だとか。他の人は臭いがすると言っていたが、私には臭わなかった。のど、鼻がやられているのか。案内した子供がお金をくれという。植田さんは手を引いてくれた子供にいくらか渡そうとしたが、ジャマールが全員分をまとめて払ってくれた。もらっていない子供がいるらしくすねている。子供一人に500ルピア払う。小学生ぐらいでかわいい盛りかと思うところではそうでない。石段の上に門があったので、ここで記念写真を撮ろうとしたら3班がいない。

16:30 ランティパオの町でショッピング。アンティークだとか看板がかかっているが、どう見ても本物。墓から運んできたように思う。どこにいても死者の人形、模様でいい加減飽きる。広場では子供たちの学芸会(植田氏の言)が行われており素晴らしい声、手指の運び方。民族衣装らしいものに身を包まれた女の子、祭りなのか。ここでも驚見さんはビデオを使って子供たちにうける。昼間のレストランの帰りにバナラ2束7000ルピアで買った。ここでも1束3500ルピアで買ったが、こちらの方が少し短い。良い香りがする。お土産に頼まれていたジャワサラサは、どうもジャワで作った綿製布のことらしい。ここへは運ばれてくるだけのよう。ウジュンバンダンかジャカルタで買う方が良さそう。ここの金製品は18Kといっても、日本では18Kとして通用しないそうだ。遊びのつもりでなら買うといひ。

18:00 ランティパオ出発、ロッジ着。3班の人たちがこちらに戻っている。運転手はどこに行くか教えられておらず、白岩先生が2回程車を止めたため、迷ったとのこと。オオコウモリを見たらしい。顔は喜んでいひ。田

圃の水たまりで女の子が5、6人泳いでいるのも見たという、今の日本では見られない光景だ。

19:30 ホテルのレストランで夕食。ハスマに夕食後、私の部屋に来てほしい、今日のこと聴きたいから。OK。その後、疲れたので今日はダメ、明日ならOKと変わる。食事中、細見先生に電話あり。つながらず。今日の昼食時の話ではお父さんが危ないとのこと。もしかするとそうなのかもしれない。後で電話し直したがかからないとのこと。心配。今夜は居持ち月、雲が懸かっている。月は赤みがかっている。淋しいものだ。高く上がっている。もう寝る。外では男女の音がする。

## 8月21日(木)

7:20 起床。平畑先生に起こされる。

7:30 朝食。トースト、ホットケーキ、バナナフライ、ジュース、トラジャコーヒー、パパイジャム、バター、昨日と同じメニュー。コーヒーの粉がカップの底に泥のように溜まるのがトラジャコーヒーらしい。

8:50 ロッジのトンコナン前で記念写真。平畑先生2枚、私1枚。

9:00 出発。3班の車不調のため白岩先生が我々4班の車に同乗する。阪口、植田、驚見、大江夫妻の6人とドライバー。標高700mのランティパオから1100mの峠を通り、パロボの原生林へ、途中案内人のヨハンを連れていく。ヨハンがスリッパを履くまでしばらく休憩。

11:00 パロボ原生林到着。弁当と水、バナナをもらって原生林へ。3時集合の予定で。細見先生は原生林の入り口で待機。入ってすぐに昼食をとった。川原の側でコーヒー豆が赤く青くなっていた。沢を4、5回渡る。ジャマールが背負って渡すのに大忙し。裸足で渡る人も出る。少し冷たくて気持ちよかったと大江夫人。ドリアンの木、ラン数種、白岩先生がシダをたくさん、スパティフィラム、キノコ、木の枝から細い気根が地面までぶら下がっている。水面に届いたらそこから白い根を出していた。あるいは小さい芽が上に向かって吹いていた。板根を形成しているもの、50m程もある木の幹にシダを着生させているもの。写真に入らず、その大きさを表現することは不可能。脇田氏は大きいスパティフィラムを採集。川に沿って上っていったので明るかった。大きい木もたくさんあった。3層になっているというが私には層状構造がわからない。3時前に元の入り口に到着。トイレを借りる。家の中に入れてもらった。土間にイス、テーブルをどっかりと据えてその他は何もない。電灯がないので暗い。つききった部屋がトイレで、水を溜めたプールが側にある。用が終わると、ひしゃくでその水を2、3杯便器に流すとよい。臭いはなく、清潔である。

15:00 出発、ランティパオに向かう。途中、白岩先生のリクエストでヤブレガサウラボシの撮影。ヨハンの店

で停車。彼も蝶やクワガタを売っているが、見るだけで買う人はいなかったようだ。ビール5000ルピア、コーヒー1000ルピア。薪を焚いている簡単なかまど、植田さんが撮影。ここのトイレもパロポで借りたトイレと同様にきれい。水は山から引いているとのこと。ヨハンの店の前にも店があったので、お金を広く落とすためにそちらに行った。ヤシの葉で包んだソフトボールのような物がぶら下げてあったので、これは何かと英語で聞いたが通じなかった。黒砂糖とのこと。2000ルピアという、買った。ハマスは高い、1500ルピアだという。甘中さんはミカン1個300ルピアを3個1000ルピアで買った。山を下りる途中でいくつかのトンコナンがあった。そのうちの1つの庭に降りて写真を撮る。坂の上から谷の方を見ると水田。大きいトンコナンと小さい倉庫が見える、撮影。豚小屋、高床式になっている。ニワトリも同居。さらに山を下りる。イネの穂だけを刈り取る収穫の仕方をしている、その穂を撮影。弥生時代の収穫の仕方と同じで踏んで脱穀するらしい。

18:00 ホテル着。ハスマを誘って我々4班5人は夕食をランティパオでとることに合意。ハスマはジャマールと町に行っているという。

18:30 やっとハスマを掴まえる。4号車で町へ、運転手に5000ルピアのチップ。昼よりも夜の方が人が多く活気がある。ボイルエビ、焼きめし、スペシャル焼きめし(目玉焼きがついているだけ)、冷たいビール。我々のほとんどがこの店で夕食、隣の席で余ったというので特別メニューをいただく。全部で11万ルピアを払う。驚見、植田両氏の計算では19万ルピアになるとのこと。2万ルピアずつ払う。ハスマの分は我々が負担。脇田氏も入って7人で食事。脇田氏は大江氏のお相手になっていた。私は大江夫人、植田氏の3人で周りの騒音の中、聞き取り難い中で楽しく喋った。息子の家には入っていないけども、その分親から子供夫婦に伝えたいことも伝えることができない。でも仕方ない。

21:00 ハマスと4人でディスコへ行くが、休店。そこでカラオケに行こうとベチャ(輪タク)と交渉。片道5000ルピアでと言ったのを驚見さんが3000ルピアにと話がつかない。町からカラオケ店、ホテルへ1台に2人乗せて6000ルピアで手を打つ。行きはハマスと同乗。カラオケ店はランティパオ・ロッジを越えてまだ向こう。昨日見た所。30分程待たせる。植田・驚見両氏はビール、私とハマスはコココーラ。向こうの席にはドライバーがいる。手を振って挨拶。リクエストが通る前に30分が過ぎたので、ベチャに乗って帰る。帰りはハスマと驚見さんと、私と植田さんと、窮屈。驚見さんはハマスの肩に手を回す、植田さんが証拠写真を撮る。驚見さんは盛んに直接ではないと弁明に躍起。6000ルピアを渡す時、息を

荒くしていた。芝居がうまい、チップは渡さない。フロントでは私たちの他に1室のキーが残っているだけ。

## 8月22日(金)

6:45 起床。寒さで小便に2回起こされる。子供たちはもう学校に行っているよと白岩先生。セーターはなくてもなんとか過ごせるが、毛布1枚ではやはり朝は寒い。熱帯でも朝はこんなに寒い。昨日は9時頃になると突然暑くなった。

9:00 ウジュンパンダンに向けて出発。10時前に子供たちが道路に現れる。学校から帰ってくるのか。裸足の子もいる。

11:00 チギチギマウンテン着。ここに到着する前、前の車の排気ガスで気分を悪くして止めてもらった。ほとんど人気のない町中で、男性1人と女性数人の前に止まった。隣の車はスピーカーでなにやら言っていたが、建物の看板にはサッカーのなかがしと書いてあった。しばらく車の外に出て休んだ。出発の時ドライバーによると、チギチギガールだとのこと。気を引くはずである。そこを前後して、細見先生の話では前を走っていた二人乗りのバイクが転倒し、道路上にピクピク動いていた、病院に連れていきたかったが近い病院はランティパオなので引き返すことになり、そのまま立ち去った。あれでは多分もうすぐ死んでしまうだろう。その後我々が救急車らしい車を見たが、どうもその事故と関係がありそう。事故現場を見なかったが、そのことらしい。チギチギマウンテンはどうも木を切り尽くしているようだ。もっとも道路の側も別に森林であるわけでもない。焼き畑で森林がなくなっているようだ。本来ここは熱帯モンスーン地帯だから森林があってもよいはずである。我々が帰った後の9月26日スマトラ島でガルーダ航空A300型機が墜落。3ヶ月にも渡って続く森林火災の煙霧のため視界が悪くなったのが原因だとも、爆発したとも言われている。この峠で大きいバナナを売っている。40cm程もある緑色。スライスしてフライするのだと。

13:50 パレパレのレストランに到着。途中でラタンを見る。卵スープ・フライドシュリンプ・フライドフィッシュ(鯛に似ている)・ボイルドクラブ・野菜炒め・ビール。

15:00 出発。レンガ造りの家があちこちで放置されている。お金が続かなかったとか、レンガは風土にあわないとかの意見あり。太陽が北から射す。国道は1本道、ごくまれに町中で二又・三又する。上下1車線づつでも追い越し走行。平均速度80km毎時。反対車線を追い越し車線として利用、90~100km毎時。今日は道路上にニワトリ・イヌ・ネコの死体を見た。サンカクイ・ミズワラビ・スイレン・ポブラカヤナギが運河に気根を出している。小魚がいた。ウジュンパンダンに近づくにつれてに

ぎやかになり、うっとうしさが出てくる。ウジュンパンダンには都会、ランティパオは避暑地。途中で日没、とうとうマカッサル海峡に沈む夕日を見ず。

18:30 Rosari Beach Hotel 着。20時から22時まで食事、18000ルピア、海鮮料理。トウガラシの調味料はのどにすごく効く。のどの筋肉が収縮、喋られない。ハスマによるとイスラム教では1日5回のお祈りがあるという、6時、9時、13時、15時、18時。1月は断食月で朝から18時まで飲食せず、18時以降に飲食するという。今日のように仕事中は心の中でお祈りをする。ホテルの部屋代が折り合いがつかない、3日分ともまだ払っていない。まだ、2～3日かかりそうと細見先生。

## 8月23日(土)

6:30 起床。

7:10 朝食。武田先生に、朝食後このホテルの代金支払いについて相談にのっていただくことを願う。

8:00 細見・平畑・大日向・武田・阪口の5人で相談。88ドル20室、110ドル3室、135ドル1室これを3日間で80万1千円(1ドル120円として)払えと言う。残りの金額は74万円余り。6万円程不足。ドルカルピアでほしいとのこと。細見先生が2、3日かけて交渉するし、できなければ自腹を切るとのこと。部屋代は以前はこの半額ほどで、国際電話で交渉をしたが話し合いがつかずに時間切れでここに来たという。こちらは次のように対応を決める。

1) 円をどれだけで替えてくれるのか、マネージャーに電話して確定。

2) 次に難癖をつけて値引かせる、風呂の悪い部屋があった、バスの手配が悪かったとか。

2時の出発までに交渉を終えて、足りなければ全員から徴収することにした。ウジュンパンダンからジャカルタまでの空港税8800ルピアとジャカルタから関西空港までの空港税合わせて約3万ルピアはルピアで持っている必要がある。

9:00 ラン園へ出発。南へ500m、少し戻り東、ドイツ人の収集した貝のコレクションを見た。どうしてこんな所へ来るのかと考えていると、その貝の棟はラン園の敷地の中にあった。松本夫人が黒真珠を買う。本当に黒い。薄暗かったので黒いビーズかと思った。この黒さは見たことがない。棟を出ると右にラン園。デンドロとバンダの間のようなランが地植えにされており、竹で支えられていた。茎の途中から太い根が出ているのでバンダのようだけど葉がそれほど大きくない、日除けなし。日除けの下にはオンシジウムとドリチスを中心。ヘゴの屑がコンポストとして利用。ラン園だから温室があるものと思っていたと言ったら、猪田さんの上の娘さん有美さんが私もそう思ったと。彼女は園芸関係の仕事に就いてい

るとのこと。パフィオベディラムもあったが、日本では普通に見られるカトレアやコショウランはないようだ。早々にして引き上げる。お土産を買いに町中へ。ホテル前の海岸道路を奥に入った道は金製品や銀製品を置いた店が軒を連ねている。北に上がった一番奥の店が買い易そうだった。金のネックレスは金1gが25000ルピア。銀細工のブローチは10000～15000ルピア。トラジャコーヒーのアラビカ50gが細工物に入って5000ルピア、ロブスタ50gが同様に4000ルピア。トラジャコーヒーはジャカルタの百貨店の食料品売場ではもっと安かった。昼食はホテルのレストランで、武田、大日向夫妻とスパゲッティとジュース。細見先生がホテルの女マネージャーと部屋代交渉成立。8000円余る。8000円は国際電話代として細見先生が受け取ればいい。彼女からプレゼントをいただいた、ロザリビーチホテルの名の入ったTシャツ。

14:00 団長から、細見、大日向両氏にお礼の言葉。

14:10 空港へ向かう。5台に分かれ、荷物車、細見先生の車の7台。来たときは全く違う道路の感じ。夜明け前と昼間の違いだろうか。空港税8800ルピアとチケットを集めグループではいる。ここで細見、ジャマール、ハスマと分かれる。

16:30 離陸、少し遅れる。2時間10分程でジャカルタに到着。

18:30 ジャカルタには日没後到着。大日向氏のお世話でそごう百貨店へ。全員が下りた後、彼が運転手にチップを渡す。側にポリスマンが、ここは駐車禁止だとチップを要求、無視。3階のジャワサラサ売場で20:00まで買い物。銀細工もウジュンパンダンとは輝きが違う、4～5万ルピア。2階の書店で20:45まで買い物。日本の書籍も売っているがほぼ2倍の値がついている。英語の書物が多い、輸入か。21:30まで地階の食料品売り場。ここでトラジャコーヒーを武田先生が見つかる、安い。ドリンクも売っている。リングはアメリカ産、小さい。ブドウ、ライチ?、ミカン、なんでもある。植田氏と3階に戻る。10分程遅れたので大日向、鷺見両氏が探しているのと1階で出会う。すみませんとバスの中へ。

22:00 空港着。パスポート、入国カード、空港チケット、空港利用税25000ルピアの4点を用意する。鷺見さんが入国カードを小荷物の中に入れてしまって、ない。グループで旅行していると堂々と言えば何とかなのではないか、もしダメなら賄賂を使うしかない。先に竹内氏が手続きをしていると、グループかというので、そうだと、全員の書類を集める。チケット、25000ルピアを渡す。ここで大日向氏と別れる。入国審査の場所で大日向夫人が鷺見さんについて行く、通訳として。しかし、鷺見さん自身が英語で説明。あちらに行くようにと言われたときは、とうとう別室に行くことになったかと2万

ルピアを覚悟したと。あちらとは書類を書くデスクでした、何とか無事すんだ。藤原さんが外で待っている大日向氏へ連絡。ダメな場合は驚見さんは大日向さんと市内のホテルで泊まる予定でした。E3ゲートまでに残り14000ルピアを使いきる。チョコレートのキットカットはどうかと若い女子店員が言うが、ネッスル製。別の店でジャスミンティー7ドルをルピアと足らずを円で買う。600円不足と言われたが、そんなに高いはずはないというと220円の請求。私も計算したら221円になったので、合意。こんな間違いがよくあるそうだ。

### 8月24日(日)

0:30 離陸。再び大日向夫人の隣、窓側。すぐに寝た。飲み物のサービスもあったようだが、わからず。夜明け前の空の明けゆく様子も少し見たが、また眠る。

8:00 朝食。高度12500m、885 km/h。

9:10 右手に潮岬が見える。

9:30 関西空港に到着。入国前に解散、各自検査を受けて家路につく。永吉会長のお迎え。武田先生と3人で昼食をとって帰宅。

### 南スラウェシ雑感

吉田 誠治

3班は武田先生、白岩先生、甘中先生そして山本先生と私の5人でした。植物に深い関心と愛情をもっておられる方々と一緒にき本当に幸せでした。実に多くのことを教えていただきました。バンでのツアーはしょっちゅうストップし、植物の観察・採集をしていました。ストップ回数では一番多かったのではないかと思います。おかげで一番多く植物に接することができたグループではなかったかと思っております。夜はほとんどが採集した植物の整理でした。

南スラウェシで一番感じたことは原生林がほとんどなかったことです。パロポの熱帯雨林でさえ、プランテーション植物が入り込んでいたり、樹木の直径も大きなものはなく、人の手がかなり入った森でした。それでも、このパロポの森ではシノキ属の植物がバラバラと見られました。シノキ属やマテバシ属の植物は自然度を示す指標になるという点から見るとパロポ以外の森はクワ科、モクマオウ、マツなどの二次林的要素の強い植物が多く見られました。私のこの旅行の最大の目的はシノキ属の標本を持って帰ることでした。一種類だけでもよいのです。シノキ属の植物はパロポの熱帯雨林以外で見つけることはできませんでした。スラウェシにはどこでもシノキ属やマテバシ属、アカガシ亜属の樹木はあると思っていたのですが、パロポに行くまでは見つけることはできませんでした。幸いにもこの目的を達成することができました。パロポの森で一番遠くまで行って休憩した所、皆さんがしばらく休憩された所でその目

的は達成されました。谷にシノキが倒れ込んでおり、花や実は採取できませんでしたが、標本を採取することができました。また、幸いなことに、そこで阿蘇先生がアカガシ亜属の大きなドングリを拾っておられ、無理をいって頂戴しました。付近を探しましたがドングリはそれだけでした。また、登山口の近くでシノキが1本あり殻斗を拾うことができました。花はちょうど咲いていましたが20~30メートルの高さにあり採ることはできませんでした。帰る途中1ヶ所道路から花を採取できそうな木がありましたが、まだ採れる木があるだろうと思って通り過ぎてしまいました。結局採取できそうな木はその木だけでした。唯一悔やまれました。シノキの葉っぱを持ち帰ることができただけでも、大成功と自分に言い聞かせています。

スラウェシには自然がそのまま残っていると思っていたのに、山奥深くまで人が入り、本体の自然が失われていることは本当にショックでした。種の保護という点からも地球は本当に危機的な状況にあるのだということに身にしみて感じました。研究すべきことはたくさんあります。次の世代に残せる自然は本当にあるのだろうか。帰国後、すでに報告されている如くインドネシアの森林の大火災。憂える事態きわまりですね。日本の照葉樹林の原点はシノキ属、マテバシ属、アカガシ亜属にあると思っていますので、この森林火災は気が気でありません。なにはともあれ有意義な旅行でした。

